

令和6年度 第2回梅坪台地域会議 会議録

■ 日 時 令和6年5月14日（火） 午後7時～午後8時30分

■ 場 所 梅坪台交流館 2階 大会議室

■ 出席者

＜委 員＞	岩崎 洋平	岩松 初男	川井 圭子
	杉浦 隆	鈴木 重久	鎮西 和也
	長江 秀昭	松川 幸江	山村 史子
	依田 武人		

＜交流館＞ 杉山 浩子（梅坪台交流館 館長）

＜事務局＞ 松下 誠（地域支援課 副課長） 大平 直樹（地域支援課 担当長）

■ 内 容

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告・協議事項
 - （1）地区コミュニティ会議関係について（報告）
 - （2）地域課題について（協議）

■ 議事内容（要約）

3 報告・協議事項

（1）地区コミュニティ会議関係について（報告）

- ・4月14（日）全体会・総務会開催
- ・11月3日（日）ふれあいまつり
- ・1月12日（日）二十歳のつどい
例年、福祉センターで浄水地区と午前／午後入れ替わりで実施していたが、今年度からは産業文化センターにて単独開催となる。
- ・6月1日（土）梅坪台中学校にて梅の販売。青少年委員会主催で実施予定。

（2）地域課題について（協議）

2グループに分かれて地域の課題を抽出し、個々の課題を属性ごとにグルーピングする作業を実施。終了後、各グループが成果物を掲示して発表を行った。内容は別紙のとおり。

■ 今後の予定

令和6年度第3回梅坪台地域会議

6月11日（火）午後7時 ～ 梅坪台交流館大会議室にて

発表内容

●A グループ

- ・結論として、「このまちに住みたい」と思うためには、生活環境を整えることが大事。
- ・街路樹が伸びている、笹川の堤防の草が茂っている、10～20年後に空き家が廃墟になることへの懸念。
- ・ゴミの問題もある。ゴミ回収の時間が生活に合っていない等。
- ・子どもが減っている中、大きくなったときに住みやすいと思える地域であることが大切だが、サポートに関する情報が行き届かない等の問題がある。
- ・高齢社会だが、高齢者向けのマンションがない、介護施設が不足している等の問題のほか、介護人材の不足や医療費の問題もある。
- ・駅は近いが車が無いと行きたい所へ行けない。バスの本数が増えると、気軽に田舎の地域へも行けるようになると思う。
- ・以上のようなことが解決されると、子どもにとって将来住みやすいまちになるのではないか。
- ・防災のことも気になっている。過去に防災の課題に取り組んだ経緯もあるが、常に意識していないと忘れてしまう問題であるため、定期的に振り返りの機会としての防災訓練等をみんなで言い、話し合うようにするとよい。

●B グループ

- ・ゴミの問題は、Aグループと同様に出た。
- ・生活環境の問題として、高齢者や子ども等がまちを歩いていても休む場所が少ない、暑いときに避難できるような場所がないといったことがある。
- ・高齢者に関しては、外出する機会が少ない、出かけたくてもバス停まで距離があって大変といったこと、デジタル技術の進展についていけないということ、一人暮らしの高齢者の困りごとをサポートできていない等のことが挙げられた。
- ・地域活動のなり手については、特に子供会等、若い世代が担えないという問題がある。働きながらでは難しい。京町では、自治区が担う形ができあがりつつあるが、梅坪町ではまだ。
- ・子どもの居場所については、親が共働きで不登校の子どもに居場所がない、学習支援ができない等の問題がある。
- ・外国人もまちにたくさん住んでいるが、その方たちの困りごとを吸い上げられていないのではないかと。外国人コミュニティがしっかりしているがために、溶け込めないという事情もある。このことによって、ゴミの出し方がわからず、生活環境の問題につながってしまうという側面もありそう。
- ・災害に関しては、高齢者や障がい者の避難の問題がある。
- ・比較的に子どもが多くいる地域ではあるものの、これから子どもが減っていくと、近所とのつながりが希薄になっていく可能性がある。
- ・全体をとおしては、異なる世代の人、外国籍の人等、様々な「人と人のつながり」というものが重要なテーマなのではないかというのが当グループの意見。